

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-173101

(43)公開日 平成6年(1994)6月21日

(51)Int.Cl.⁵

A 4 1 C 1/00
1/08

識別記号

庁内整理番号

G

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 5(全 6 頁)

(21)出願番号 特願平4-350685

(22)出願日 平成4年(1992)12月3日

(71)出願人 390012335

スワニー株式会社

大阪府大阪市東淀川区下新庄5丁目8番25号

(72)発明者 真方 勝美

大阪市東淀川区下新庄5丁目8番25号 ス
ワニー株式会社内

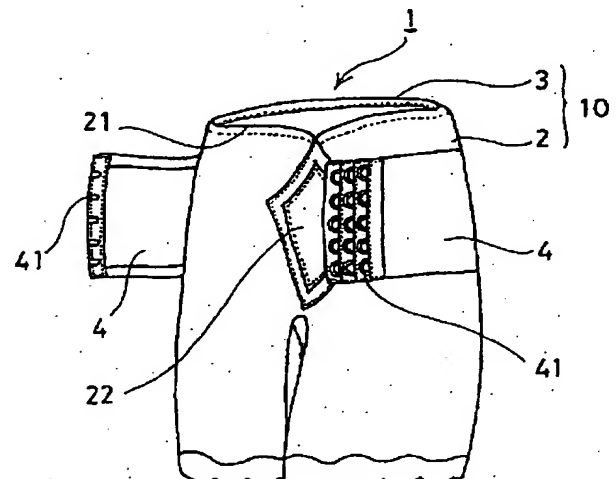
(74)代理人 弁理士 清原 義博

(54)【発明の名称】 矯正用ガードル

(57)【要約】

【構成】 前身頃及び後身頃からなるガードル本体とこのガードル本体の側辺部より帯状に延出された高繊維繊維材料からなる骨盤矯正片とから構成される。前身頃には中央部に高繊維繊維部が設けられ、且つ後身頃には高繊維繊維材料からなるヒップ被覆部が設けられている。また、前身頃上方に略V字状のウエストラインを設けたり、又は後身頃のヒップ被覆部に左右一対のカップ部を形成してもよい。さらに骨盤矯正片はガードル本体の左右側片部よりそれぞれ一本の帯状で延出してもよい。また、骨盤矯正片をガードル本体から着脱自在としてもよい。

【効果】 ヒップライン、下腹部の整容及び骨盤の矯正とを同時に且つ効果的に行なうことができ、しかも着用者に違和感や窮屈感を与えることがない。



【特許請求の範囲】

【請求項1】前身頃及び後身頃からなるガードル本体とこのガードル本体の側辺部より帯状に延出された高繊維度繊維材料からなる骨盤矯正片とから構成され、前記前身頃には中央部に高繊維度繊維部が設けられ、前記後身頃には高繊維度繊維材料よりなるヒップ被覆部が設けられてなることを特徴とする矯正用ガードル。

【請求項2】前記前身頃の上方には略V字状のウエストラインが形成されてなることを特徴とする請求項1に記載の矯正用ガードル。

【請求項3】前記後身頃のヒップ被覆部には左右一對のカップ部が形成されてなることを特徴とする請求項1乃至2に記載の矯正用ガードル

【請求項4】前記骨盤矯正片がガードル本体の左右側辺部よりそれぞれ一本の帯状に延出され、且つこの左右側辺部より延出された骨盤矯正片がそれぞれ互いに任意箇所係脱自在に係合されてなることを特徴とする請求項1乃至3に記載の矯正用ガードル。

【請求項5】前記骨盤矯正片がガードル本体に着脱自在に取り付けられてなることを特徴とする請求項1乃至4

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は矯正用ガードルに係り、その目的はヒップライン、下腹部の整容及び出産後等における骨盤のズレの矯正を効果的に行なうことができ、しかも着用者に違和感や窮屈感等を与えることがなく、良好な着用感を演出することができるガードルの提供にある。

【0002】

【従来の技術】一般にガードルはウエスト部位から下の下肢帯、つまり腰部、腹部、臀部、大腿部などを体型的に美しく整える目的で、衣服の下着として着用されている。このようなガードルは、通常、締め付け力のある生地により構成されており、着用により身体を締め付けることによって、下腹部のたるみやヒップの垂れ下がりや矯正せんとするものであった。しかし、単に締め付け力のある生地を用いただけでは充分な整容効果や矯正効果を得ることができず、最近ではより高い矯正効果を得るために種々のタイプのガードルが創出されてくるようになってきている。例えば、矯正効果を得ようとする特定部位にのみ充填を置き、その部位にのみ強力な伸縮性を有する補強生地を用いたもの、すなわちヒップラインの整容のみを目的として、ヒップ被覆部分にのみ強力な伸縮性を有する補強生地を用いたガードルや、或いは針金や合成樹脂等からなる芯材を用い、この芯材を生地の特定部位に縫着してより高い矯正・整容効果を得ようとしたガードル等が創出されてくるようになってきている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、特定部

位にのみ強力な伸縮性生地を用いたガードルでは、強力な伸縮性を有する生地により他の生地が引っ張られてしまい、着用感が極めて悪くなるといった課題が存在した。すなわち、ヒップ被覆部分にのみ強力な伸縮性を有する補強生地を用いたガードルでは、ヒップ部の伸縮力により前身頃等が引っ張られてしまい、前身頃がお腹に食い込んでくるなどの窮屈感等を着用者に与えてしまうといった課題が存在した。また、針金や合成樹脂等からなる芯材を生地の特定部位に縫着したガードルでは、着用による窮屈感や違和感を着用者に与えやすい、或いは着用者の身体には不適合な場合がある等の課題が存在した。さらに、繰り返される洗濯や脱着などにより芯材そのものが変形したり、破損してしまうことがあったり、破損により衣服や身体を傷付ける恐れがあるなどの課題が存在した。そこで業界では、ヒップラインや下腹部の整容、及び出産後の骨盤のズレ等を効果的に矯正することができ、しかも着用者に窮屈感や違和感等を与えることのない着用性の良好なガードルの創出が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明では、前身頃及び後身頃からなるガードル本体とこのガードル本体の側辺部より帯状に延出された高繊維度繊維材料からなる骨盤矯正片とから構成され、前記前身頃には中央部に高繊維度繊維部が設けられ、前記後身頃には高繊維度繊維材料よりなるヒップ被覆部が設けられてなることを特徴とする矯正用ガードルを提供することにより上記従来の課題を悉く解消する。

【0005】

【実施例】以下、図面に基づいてこの発明に係る矯正用ガードルの実施例を詳述する。図1はこの発明の矯正用ガードルの一実施例を示す外觀説明図であり、図2は図1の正面説明図、図3は背面説明図である。図示する如くこの発明のガードル(1)は、前身頃(2)及び後身頃(3)とから形成されるガードル本体(10)とこのガードル本体(10)の側辺部より帯状に延出される骨盤矯正片(4)とから構成されている。この発明において、ガードル本体(10)及び骨盤矯正片(4)はそれぞれ伸縮性を有する弾性繊維材料より構成されている。この伸縮性を有する弾性繊維材料としては特に限定はされず、通常のガードルで用いられているスパンデックス等のポリウレタン系繊維或いはポリウレタン系繊維と他のアクリル、ナイロン等の繊維との混紡繊維が好適に使用される。図示する実施例において、骨盤矯正片(4)はガードル本体(10)の左右側辺部よりそれぞれ一本の帯状に延出され、左右一對の骨盤矯正片(4)とされている。またこの実施例では、骨盤矯正片(4)の先端部にはそれぞれ係合手段とされるホック部(41)・

(41)がそれぞれ設けられており、任意箇所係脱自在に係合される。さらに前身頃(2)の上方には、略V

字状にウエストライン(21)が形成されており、しかもこの前身頃(2)の中央部には高繊維繊維材料からなる高繊維繊維部(22)が設けられている。このように前身頃(2)の上方のウエストライン(21)を略V字状に形成することによって、着用時の身体の屈折に伴う下腹部の脂肪のたるみ等によりガードル(1)のウエストライン(21)が折り返され、まくれあがったりすることがないので、良好な着用感を演出することができる。

【0006】さらに後身頃(3)には、高繊維繊維材料よりなるヒップ被覆部(31)が設けられており、しかもこのヒップ被覆部(31)には左右一対のカップ部(31a)が形成されている。このように後身頃(3)にカップ部(31a)を設けることによって、ヒップを包み込むようにして締め付けることができるので、より良好なヒップラインの整容が行える。

【0007】またこの発明の矯正用ガードルでは、前身頃(2)の中央部(22)及び後身頃(3)のヒップ被覆部(31)、さらに骨盤矯正片(4)においてそれぞれ高繊維繊維材料が使用されている。この発明において高繊維繊維材料とは、他の部位の繊維材料よりも高い繊維度を有する繊維材料のことをいい、具体的には他の部位の繊維材料の約2倍の繊維度を有する繊維材料が使用される。例えば、前身頃(2)及び後身頃(3)を通常の伸縮性繊維、例えば70デニールのナイロン82%と280デニールのポリウレタン系繊維18%との混紡よりなる繊維材料から構成したとすると、高繊維繊維材料としては140デニールのナイロンと560デニールのポリウレタン系繊維との混紡よりなる繊維材料が使用されるが、特に限定はされず、他の繊維材料よりも高い繊維度を有する繊維材料が好適に使用される。また、この高繊維繊維材料の種類や混合比率についても特に限定はされず、上記したナイロンとポリウレタン系繊維との混紡以外にも、ポリウレタン系繊維とアクリルとの混紡等、適宜任意に採用することができる。

【0008】この発明では、上記したような高繊維繊維材料が前身頃(2)の中央部(22)及び後身頃(3)のヒップ被覆部(31)、さらに骨盤矯正片(4)においてそれぞれ使用されている。前身頃(2)の中央部(22)及び後身頃(3)における高繊維繊維材料の使用方法については特に限定はされず、例えば通常の繊維材料の上に被覆するように高繊維繊維材料を用いて、前身頃(2)の中央部(22)及び後身頃(3)のヒップ被覆部(31)とをそれぞれ通常の繊維材料と高繊維繊維材料との二重構造としても、或いは通常の繊維材料に連設して高繊維繊維材料を一重又は二重で縫着して用いてもよく、特に限定はされない。

【0009】このように、ヒップ被覆部(31)及び前身頃(2)の中央部(22)にそれぞれ高繊維繊維材料を使用することにより、後述する骨盤矯正片(4)によ

る締め付け時に、効果的なヒップラインの整容が行なえ、しかもヒップ被覆部(31)の伸縮力により前身頃(2)が引っ張られてしまうことがなく、着用者に窮屈感を与える恐れがない。

【0010】以上のような構成からなるこの実施例においては、ガードル本体(10)の左右側辺部よりそれぞれ带状に延出された左右一対の骨盤矯正片(4)を図4に示すように係合手段を介して係合させることにより、ヒップ、下腹部、骨盤とをそれぞれ効果的に整容・矯正することができる。すなわち、骨盤矯正片(4)及びヒップ被覆部(31)及び前身頃(2)中央部(22)にはそれぞれ高繊維繊維材料が使用されているので、一対の骨盤矯正片(4)をそれぞれ任意の位置で係合させることにより、高繊維繊維材料による伸縮力で骨盤、下腹部、ヒップ部がそれぞれ締め付けられる。しかもこの締め付け時には、ヒップ被覆部(31)のカップ部(31a)によりヒップ部分をカップ部(31a)によって包み込むように締め付けることができるため、ヒップに対して無理な締め付けを行なうことなく、形よく整容することができる。また前身頃(2)中央部(22)には高繊維繊維部が設けられているので、ヒップ被覆部(31)の締め付け力により前身頃(2)が引っ張られてしまうことがないので、着用者に窮屈感を与えることなく良好な着用感を演出させることができる。

【0011】以上の実施例においてはガードル(1)としてロングガードルが図示されているが、この発明においては特に限定はされず、例えば図5に示すようなショートガードルとしてもよく、さらに一対の骨盤矯正片(4)の係脱手段(41)としてもホックには限定されず、図示するように面ファスナを用いてもよい。骨盤矯正片(4)の係脱手段(41)に面ファスナを用いると、個人の体型に合わせた任意箇所で骨盤矯正片(4)を係合させることができる。さらに、骨盤矯正片(4)の長さについても特に限定はされず、図4に示したように左右共略同じような長さに設定し、ガードル本体(21)の略中央部で係合させる以外に、例えば図6に示すように右或いは左側部にて係合させるべく、いずれかの骨盤矯正片(4)をより長く、他方を短く設定してもよい。図6に示すように骨盤矯正片(4)を右或いは左側部にて係合させる構成を採用すると、骨盤矯正片(4)の係合により形成される係合厚が下腹部中央部には現れないため、外観のシルエットラインをすっきりとさせることができる。さらに、骨盤矯正片(4)の形状についても特に限定はされず、前記した一本の带状に形成されなくとも、例えば図7に示すように複数本の带状に形成されていてもよい。

【0012】また骨盤矯正片(4)は、以上の実施例にて示したようにガードル本体(10)の左右側辺部に直接縫着されていてもよく、或いは図8にて示すようにホックや面ファスナなどの係合手段(42)を介してガー

ドル本体(10)の側辺部に着脱自在に設けられていてもよい。このように骨盤矯正片(4)をガードル本体(10)に着脱自在に設けておくと、個人の好みや体調に応じて任意に骨盤矯正片(4)を取り外すことができるが、特に限定はされない。

【0013】図9はこの発明の他の実施例を示す外観説明図であるが、図示する実施例では、骨盤矯正片(4)はガードル本体(10)の側辺部から一本の帯状で延出され、しかも前身頃(2)の内側で前身頃(2)に直接縫着されている。このように、骨盤矯正片(4)を前身頃の内側に縫着しておくと、骨盤矯正片(4)の形状がシルエットラインとして外観に現れることがない。

【0014】以上の実施例以外に、この発明では図10に示すように、前身頃(2)の上方のウエストライン(20)を通常の水平状に形成していてもよく、あるいは後身頃(3)のヒップ被覆部(31)にカップ部を形成していないガードルであってもよく、適宜任意に設定することができる。

【0015】

【発明の効果】以上詳述した如く、この発明は前身頃及び後身頃からなるガードル本体とこのガードル本体の側辺部より帯状に延出された高繊維繊維材料からなる骨盤矯正片とから構成され、前記前身頃には中央部に高繊維繊維部が設けられ、前記後身頃には高繊維繊維材料よりなるヒップ被覆部が設けられてなることを特徴とする矯正用ガードルであるから、ヒップライン、下腹部、骨盤部を効果的に整容・矯正することができるとともに、ヒップラインの矯正に伴って前身頃が引っ張られたりすることがないので着用者に違和感や窮屈感を与えないなど良好な着用感を演出することができるという優れた効果を奏する。前身頃の上に略V字状のウエストラインを形成しておくと、身体の屈折等に伴って生じる下腹部の脂肪のたるみにより前身頃のウエストラインが折り返されたり、まくれ上がったたりすることがないという効果を奏する。ヒップ被覆部に左右一対のカップ部を形成しておくと、ヒップラインの締め付けをカップ部によって包み込むように圧縮して行えるので、効果的な整容が行えるという効果を奏する。骨盤矯正片をガードル本体の左右側辺部よりそれぞれ一本の帯状に延出させ、これら骨

盤矯正片を互いに任意箇所に係脱自在に係合させる構成とすると、個人の体型に応じた締め付け、矯正を行なうことができるという効果を奏する。さらに骨盤矯正片をガードル本体から着脱自在に設ける構成としておくと、個人の体調等に応じて任意に整容・矯正効果を軽減させることができるため個人の好みに応じた整容・矯正が行えるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明に係る矯正用ガードルの第一実施例を示す外観説明図である。

【図2】図1に示した矯正用ガードルの正面説明図である。

【図3】図1に示した矯正用ガードルの背面説明図である。

【図4】図1に示した矯正用ガードルの着用時を示す正面説明図である。

【図5】この発明に係る矯正用ガードルの第二実施例を示す外観説明図である。

【図6】この発明に係る矯正用ガードルの第三実施例を示す外観説明図である。

【図7】この発明に係る矯正用ガードルの第四実施例を示す外観説明図である。

【図8】この発明に係る矯正用ガードルの第五実施例を示す外観説明図である。

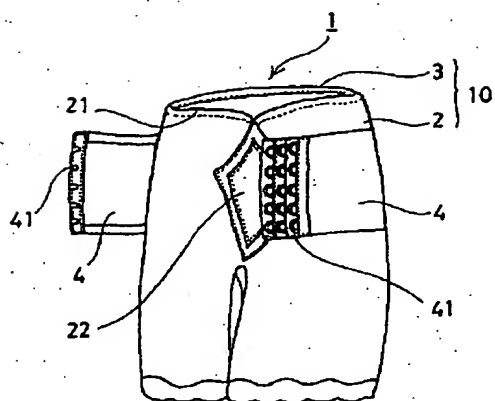
【図9】この発明に係る矯正用ガードルの第六実施例を示す外観説明図である。

【図10】この発明に係る矯正用ガードルの第七実施例を示す外観説明図である。

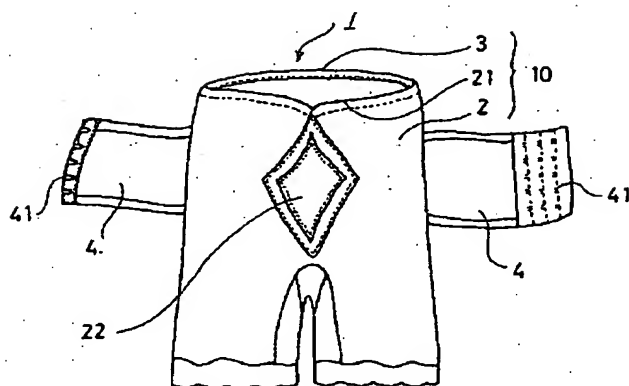
【符号の説明】

- 1 矯正用ガードル
- 10 ガードル本体
- 2 前身頃
- 21 ウエストライン
- 22 高繊維繊維部
- 3 後身頃
- 31 ヒップ被覆部
- 31a カップ部
- 4 骨盤矯正片

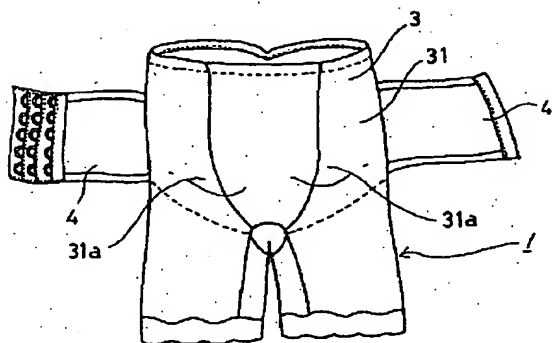
【図1】



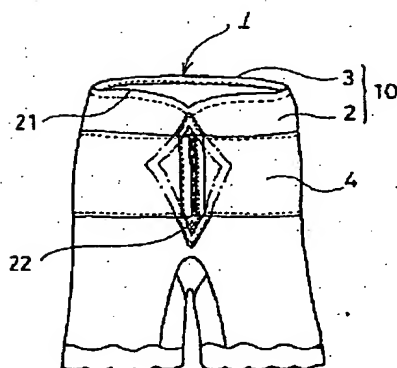
【図2】



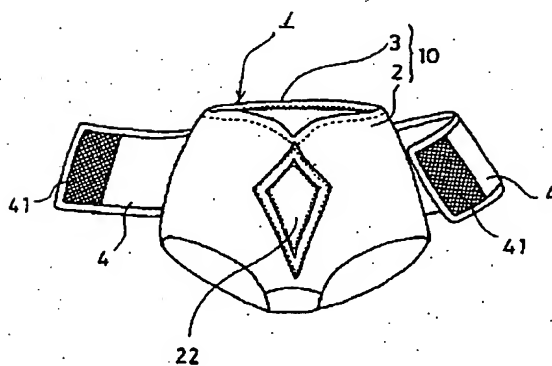
【図3】



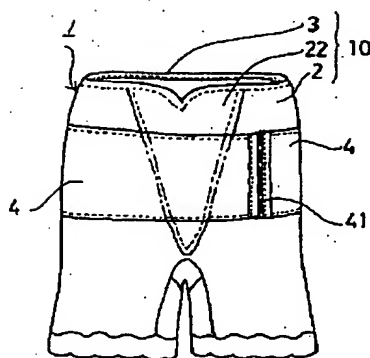
【図4】



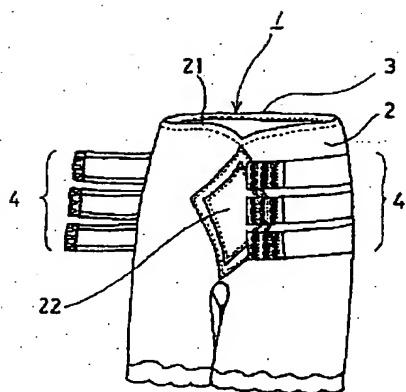
【図5】



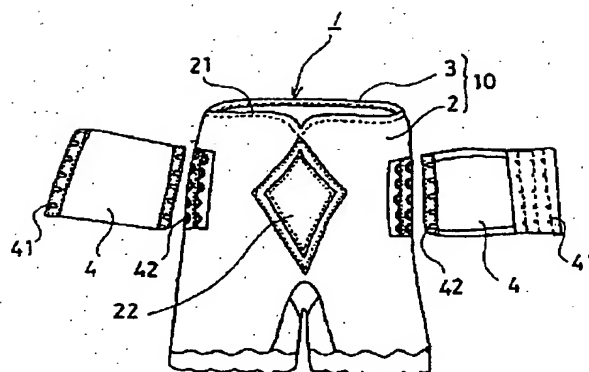
【図6】



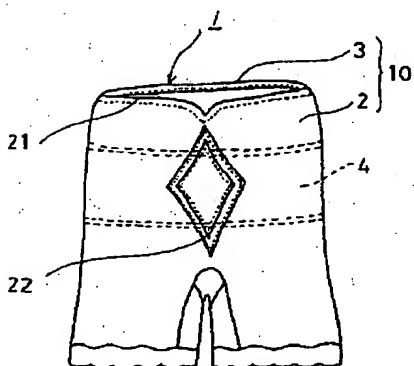
【図7】



【図8】



【図9】



【図10】

